

日田の課題

市長選を前に

= 2 =

「60代は若い方で、70、80代に頼っている。新たな就業者はほとんどなく危機的な状況だ」

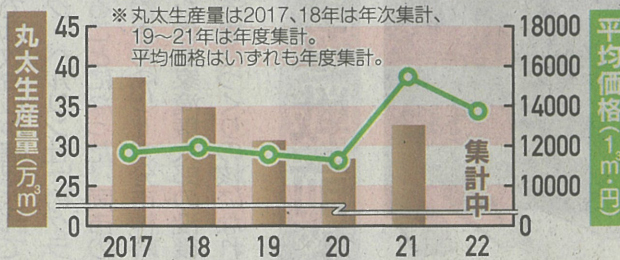
日田市森林組合の和田正明専務(63)は、林業の人手不足に頭を抱える。

市の統計によると、2020年の林業作業者数は515人で、10年と比べて1割に当たる56人減った。年代別では60歳以上の割合が37%（193人）と、32%（183人）から増加。うち70歳以上が68人（10年は53人）おり、高齢化も一段と進んだ。

特に深刻なのは植樹や下草刈りといった造林分野。原木の切り出しは機械化が進み、新規就業者も比較的にあるが、造林は人力が中心だからだ。「植樹を依頼し

ても2、3年待ちになるケースもある」と和田専務。米国の住宅建築ラッシュによる21年度ごろからのウッドショックで木材価格は高値を維持しており、林業

日田市内の丸太生産量と平均価格



林業の活性化



田島山業の杉林で間伐をする社員＝日田市中津江村合瀬

は追い風が続く。その中で新たな課題も浮上した。中津江村に杉林など1200畝を持つ田島山業の田島信太郎社長(66)は「効率的に生産量を稼ぐため、間伐でなく皆伐のはげ山が増えていく。このままでは保水力が落ちた山が増加し、災害の危険性が高ま

る」と指摘する。伐採後に再造林するサイクルも加速はしている。災害に強い森林を目指し、市は深く根を張る広葉樹への植え替え支援など対策を打つが、植樹や下草刈りの担い手不足もあり、伐採量に追い付いていない。

社会が脱炭素へ進む中、森林の二酸化炭素吸収量を必要とする企業に販売する国の認証制度「Jクレジット」は、林業の新しい収入源として期待される。ただ、市内での導入は現在、田島山業だけ。山林所有者からは手続きの手間や採算性などの課題が聞かれ、まだ様子見が多い。

需要の高まりを逃さぬ木材生産と災害に強い森づくり。両立に向けた課題の解決が、基幹産業の鍵を握る。(刀根徹朗)

人手不足、防災が急務に